

15. し尿処理施設の設置及び管理運営に関すること

主管：環境センター

経緯

平成2年の供用開始から28年が経過し、設備機器類の点検整備を行い設備の維持に努めている。

浄化槽清掃業務は、平成24年度から全て民間委託とし、し尿収集業務は、上松町のみ直営で行っている。

現状と課題

現状 平成28年度処理量は12,758kl（し尿5,029kl、浄化槽汚泥7,729kl）で、1日当たりの処理量は34.9klとなっている。郡内の人口減少等によりし尿及び浄化槽清掃の収集量、処理量は、年々減少している。施設の処理能力が80klであるため、現在は2基を交互運転している。

また、環境センターから排出される脱水汚泥は、民間の堆肥化工場において全量コンポスト化されている。

課題 施設は、定期的な点検整備や補修工事を実施しながら引き続き延命を図っていくことが必要であり、設備機器についても計画的な更新が必要である。

今後の方針

設備の効率的な運用のため、隣接する汚泥集約センターの下水汚泥とし尿の一体処理化を、2020～2021年頃を目途に推進する。また、施設設備の延命化のため、延命化計画を策定し長寿命化を図るほか、し尿等の更なる減量が見込まれるので、管理、補修、運転の方法をそれに対応したものとし、効率的な運営を図る。

脱水汚泥の処分については、引き続きコンポスト化により、有効活用を進めていく。なお、収集業務については、平成30年度より全町村、完全民間委託で行う。

施策

- 1 施設・設備の維持管理
 - ① 機器類の点検及び修繕工事の実施
 - ② 機器類を計画的に更新
- 2 脱水汚泥の資源化による有効活用
- 3 し尿と下水汚泥の一体処理方法の検討及び推進